

ADCA 青年会議 令和 7 年度 第 1 回農業実践研修 実施報告

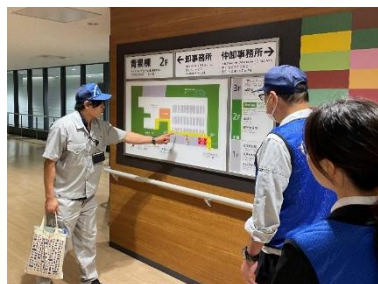
テーマ	日本の市場流通システムと付加価値向上のための取組
会場	東京都中央卸売市場 豊洲市場
開催日	2025 年 7 月 17 日（木）
講師	須永 友樹 氏（東京都中央卸売市場 豊洲市場 管理課）
プログラム	・ 【見学】 豊洲市場（青果）の見学 ・ 【講義】 日本の青果流通の特徴、卸売市場に関わるアクターとその役割、豊洲市場における付加価値向上のための最新の取り組み ・ 質疑応答

近年、途上国の農業・農村開発分野においては生産拡大のみならず、農産物の付加価値化のため、投入から生産、加工、流通、消費までの各段階を繋ぎ合わせたフードバリューチェーン（FVC）の構築や強化が求められている。このような状況から、本研修では「流通」に着目し、日本の青果の流通現場を事例に学ぶことを目的に、豊洲市場を訪問した。研修には ADCA 正会員及び賛助会員企業から 10 名が参加した。

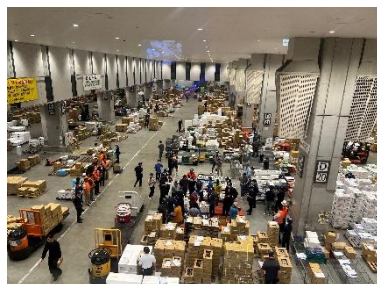
研修当日は早朝に集合し、東京都の職員である須永氏にご説明をいただきながら、青果の搬入から卸売業者、仲卸業者を経由して出荷されていく一連の流れや、せりの様子、保冷施設等を見学を行った。その後の講義では、卸売市場に関わっているアクターとその役割や、付加価値向上のための最新の取り組みについてご説明をいただいた。

現在、日本の青果市場では、全ての青果がせりで取引されているのではなく、9 割は前日の価格等に基づいて売り手と買い手が直接取引を行う相対取引で行われており、せりで取引をするのは、わさび等の希少かつ高価なものや、JA などを介さない小ロットのものに限られることが紹介された。相対取引は JA 等が品質や規格を保証しているからこそ可能な取引であり、長年の信頼の上に構築されてきたしくみであることが分かった。また施設の観点からは、豊洲市場は新しく開設された市場であり、品質面、衛生面においても考慮された設計になっていた。壁で囲われている閉鎖型の施設は、通年に渡り室内温度を 20 度前後に保つことを可能にしていた。

参加者からは、「東京都の方と一緒に市場の様子を見学できたことがよかった」「市場の運営者側の立場からお話を伺えたこと、また、市場に関わるアクター（卸売業者、仲卸業者、売買参加者、関連事業者、東京都等）の役割がより明確になった点がよかった」「最新の市場物流システムが確認できた」といった感想が得られた。一方、今回は市場を管理する東京都の方にお話を伺ったため、卸売業者からもお話を伺い、現在の課題や取組について学びたかったという声も上がったものの、研修参加者の満足度は全体的に高く、日本の流通について現場から学ぶことができた貴重な機会となった。



東京都 須永氏によるご説明



青果棟の様子



移動せりの様子